

# 鹿工 初戦で散る 若溪に 21-50

## ラグビー 全国高校ラグビー大会

第2日は28日、大阪府東大阪市の花園ラグビー場で1回戦1試合が行われ、鹿児島県代表の鹿児島工は若溪学園(茨城)に21-50で敗れた。

前回8強の報徳学園(兵庫)が24トライを奪い、1試合の最多得点記録を更新する16大会で東福岡が浜松工(静岡)を相手に挙げた139点。石見智翠(鳥根)は富山第一を132-10で下し、日川(山梨)も2回戦に駒を進めた。30日の2回戦から2連覇を狙う大阪桐蔭(大阪第一)や選抜大会を制した桐蔭学園(神奈川)などシード校が登場する。

## 後半3トライ 反撃及ばず

前回は24トライを奪った。

0000	33021
TCF前	TCF後
4131	33019
50	50

【評】鹿工は前半の大量失点が痛手となった。開始直後に先制トライを許し、前半16分までに4トライを奪われた。0-31で折り返した後半は敵陣での攻撃が増え、10分にゴール手前のラックからナンバー8神田、21分にCTB杉崎、ロスタイムにフッカー倉園がトライを決めた。若溪学園はスピードある攻撃で後半も19得点した。

▽1回戦  
 若溪学園 50 鹿児島工 21  
 報徳学園 33 桐蔭学園 19  
 石見智翠 139 浜松工 10  
 東福岡 16 東海学園 10  
 山形中央 16 山形中央 10  
 静岡 139 静岡 10  
 神奈川 132 神奈川 10  
 日川 132 日川 10  
 山梨 132 山梨 10  
 富山第一 132 富山第一 10



前半、攻め込む鹿工のナンバー8神田(中央)

最初の16分間。ここで全てが決まってしまった。想定を上回る相手のスピード、バックスの機動力、ワイドな攻撃。鹿工は対応できない。チームとして6年ぶりの花園だが、選手たちは初めて、「気持ちと体が合っていないかった」(ロック岸本)という緊張感が、全員の体を縛っていた。

前半16分までに立て続けに4トライを奪われた。ペナルティゴールも含め、31失点。自陣で攻められる時間が続き、FW陣もスクラムで押し負ける。少ないチャンスでは、相手の圧に押し負けてハンドリングミスが重なる。密集での出足で後手に回り、完全に相手ペースにのみこまれた。

だが、徐々に慣れて感覚をつかんだ。「モールを使い、ボールを動かし続けよう」。そう確認したハーフタイム後、反撃ののろしを上げた。後半10分、FW陣が攻撃を仕掛け、神田が押し込みトライを奪う。杉崎、福永の両CTBがラインを切り裂き、外を使った攻撃も形になった。

後半は21-19と相手を上回る戦いぶり。「体を張り、よく戦ってくれた」。試合後、籠園監督はこみ上げる涙をこらえ、誇らしげに笑った。

大会直前の鼻の骨折に負けず戦ったフッカー倉園は「最後のスクラムは特に頑張った」と終了間際のトライにつながったプレーに満足。諦めない姿勢で、駆けつけた200人以上の生徒や保護者だけでなく、聖地の観客も沸かせた。「やりきった」。選手たちの表情は、すがすがしさにあふれていた。(山下紗采)

後半21分、杉崎がトライ。ゴールも決め、14-43とする  
II花園



### 主将が攻撃けん引

○：1番最初に練習に駆けつけ、1番最後までグラウンドに残る努力家のCTB杉崎。「背中で引く張るタイプの主将」(窪園監督)が、花園でもチームを勢いづけた。相手のタックルをはね返し、倒れてもすぐ立ち上がる強さを見せ、攻撃の要としてグラウンドを縦横無尽に駆け抜けた。

も最後までグラウンドに残って感触を確かめたキックの精度は抜群で、コンバージョンゴールを全て決め、実力をいかんなく発揮した。  
「悔いは残るけど、やりきった」。笑顔のホープは強豪・流通経済大に進む。次のステージでも努力を続ける覚悟だ。(山下紗采)

### 昔の仲間と対戦

後半21分には、相手のこぼれ球を拾ったWTB田中からパスを受け、30分独走の「完璧」なトライ。前日練習で



ラ・サール中出身で若狭学園のCTB内田

II花園

たのは中学時代だけがジュニアチーム「鹿児島オールブラック」で腕を磨き、県中学選抜にも選ばれた。鹿工には同チーム出身のSO林ら、選抜で共にプレーした選手がいた。「互いに成長した姿を見せられた」と昔の仲間たちとの対戦を楽しんだ。  
次戦は連覇を狙う大阪桐蔭。内田は「次こそは自分がトライを決めて、勝ちたい」と意気込んだ。(山下紗采)